

令和5年度病害虫発生予報第10号（1月）

令和5年12月26日
愛知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	－
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	葉かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	－
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

【トマト、キュウリ・灰色かび病】

本日発表の「灰色かび病情報第1号（トマト、キュウリ、ナス、イチゴ）」を参照してください。

【キュウリ・うどんこ病】

発生が多いほ場ではダイアメリット DF やパンチョ TF 顆粒水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

トマトでは、12月上旬の巡回調査でコナジラミ類の発生量が過去10年で2番目に多い状況です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介します。黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内に設置して成虫を捕殺するとともに、薬剤防除しましょう。薬剤防除は同系統の薬剤を連続して使用するのには避け、気門封鎖剤も活用しましょう。発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。また、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するので、同様に防除を徹底しましょう。

トマトすすかび病の発生量が多いほ場があります。多湿条件下で多発するので、湿度管理を適切に行いましょう。農薬は葉裏にもかかるよう、丁寧に散布しましょう。

ナス、イチゴでも灰色かび病が発生しているほ場があります。本日発表の「灰色かび病情報第1号（トマト、キュウリ、ナス、イチゴ）」を参照してください。

イチゴにおいては、ハダニ類の発生量は平年並ですが、多発しているほ場が多くあります。春先、気温が高くなると多発しやすくなります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。また、アザミウマ類が発生しているほ場もあります。暖かくなるとアザミウマ類が急激に増加します。注意して観察し、早めの防除を心がけましょう。農薬は訪花昆虫や天敵への影響も考えて選定しましょう。

作物

・留意事項

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は水田や水路の土中に潜って越冬します。土壌が乾燥して硬い厳寒期（1～2月）に耕うんを行い、貝を物理的に破碎すると共に寒風にさらすことで、スクミリンゴガイの越冬量を減らすことができます。スクミリンゴガイが発生しているほ場では、越冬量を減らすために冬期耕うんを行いましょう。トラクターの作業機に付着した泥は、きれいに洗浄し、他ほ場に持ち込まないようにしましょう。また、水路の泥あげを行い、水路内のスクミリンゴガイを寒風にさらし、水路での越冬量も減らしましょう。掘り上げた泥は、他ほ場へ持ち出さないようにしましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台12月21日発表）

〈特に注意を要する事項〉

二週目は気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%